

年度	学年	一小	二小	三小	四小	立川小	計	余目中	立川中	計	小中計
2017年度 (平成29年度)	1年	42	33	31	14	19	139	155	31	186	
	2年	37	30	39	26	41	173	154	35	189	
	3年	42	42	38	26	34	182	163	33	196	
	4年	39	33	42	27	39	180				
	5年	48	37	39	24	33	181				
	6年	29	29	36	29	31	154				
	計	237	204	225	146	197	1009	472	99	571	1580
2022年度 (令和4年度)	1年	26	32	31	24	15	128	138	40	178	
	2年	32	33	31	24	23	143	150	36	186	
	3年	30	36	39	18	25	148	146	40	186	
	4年	42	34	27	17	25	145				
	5年	27	32	35	28	26	148				
	6年	40	34	30	14	19	137				
	計	197	201	193	125	133	849	434	116	550	1399
2028年度 (令和10年度)	1年	27	24	18	12	15	96	113	15	128	
	2年	20	20	17	19	15	91	120	23	143	
	3年	25	25	24	15	16	105	123	25	148	
	4年	33	31	26	18	16	124				
	5年	35	26	37	20	23	141				
	6年	36	29	20	17	28	130				
	計	176	155	142	101	113	687	356	63	419	1106

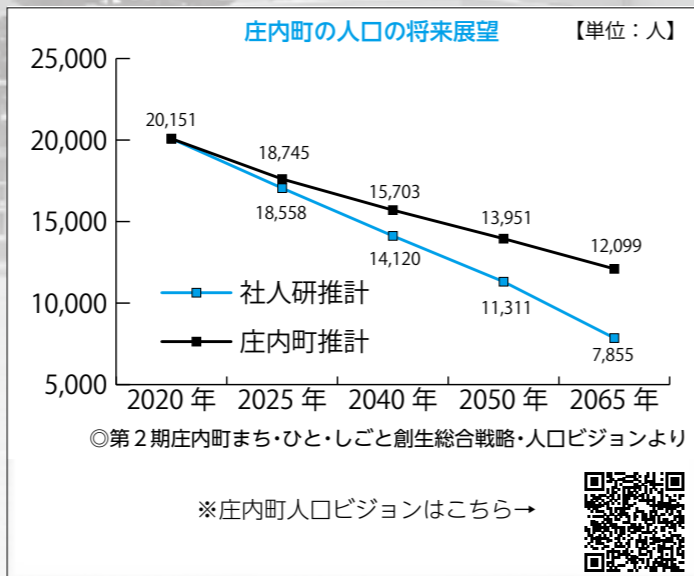
～子どもたちの未来のために～

持続可能な学習環境とは

学校の教育環境に関するアンケートにご協力ください

施設の建設年・経過年数

施設名	校舎建設	経過年数	体育館建設	経過年数
余目第一小学校	1963年	59	1966年	56
余目第二小学校	1964年	58	1966年	56
余目第三小学校	1964年	58	1966年	56
余目第四小学校	1976年	46	2010年	12
立川小学校	1973年	49	1974年	48
余目中学校	1986年	36	1986年	36
立川中学校	1995年	27	1995年	27



学校適正規模・適正配置審議会を設置

児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化に対応しながら、児童・生徒がより良い教育環境で学ぶことができるようにするため2021年12月、町教育委員会は、「学校適正規模・適正配置審議会」を設置しました。この審議会は、「20～30年後を見据えて、より良い学び（学校生活）ができる持続可能な学習環境をつくる」ことを基本方針として町の小学校や中学校の適正規模や適正配置について検討しています。

児童生徒数の推移と将来推計

町の児童生徒数は、2017年度には1580人（小学生1,009人、中学生571人）でしたが、2028年度には小・中学校ともに、児童生徒数が減少し、1,106人（小学生687人、中学生419人）※2017年度比△30%となることが予想されています。児童生徒数が減少している中、現在、通常学級については、余目第三小学校（3学年のみ）と余目中学校以外は全ての学年で単学級（1クラス）編制となっています。将来的にもこの状況が続くものと予想されることから、児童生徒の教育環境について、長期的な視点で検討する必要があります。

町の人口ビジョン

2020年の国勢調査によると、総人口は20,151人で、これまで減少傾向で推移してきました。

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によると、2025年に

18,558人、2040年に15,000人を下回ると予想されています。その後も減少を続け、2065年には7,855人まで減少するとされています。

小・中学校施設の老朽化

出生数が上り調子だった1960年代から第二次ベビーブームが終了する1970年代にかけて建築した小学校の老朽化が大きな課題となっています。文科科学省が2013年にまとめた「学校施設の老朽化対策について」によると、全国の公立小・中学校のうち鉄筋コンクリート造の学校施設を建て替えるまでの平均年数は42年となっています。町では1960年代に余目第一・余目第二・余目第三小学校の建設から始まり、全ての小学校校舎が建築後全国平均を上回る年数を経過している状況です。なお、令和2年度に余目第一小学校・余目第三小学校は全面改修に適さないと判断されており、近いうちの建て替えが必要です。

維持費用を抑えながら、将来にわたって子どもたちの学校における安全を

確保するとともに、未来の教育活動に対応できるよう教育環境を充実させていくためには、老朽化の課題を早急に解決しなければなりません。建て替えや全面改修する学校施設の優先順位を検討し、計画的に実行していく必要があります。

仮に小学校全てを建て替える場合、教育委員会では、体育館も含め（余目第四小学校体育館は除く）約72億円が必要になると試算しています。小学校全てを全面改修する場合には（余目第一・余目第三小学校は建て替え、余目第四小学校体育館は除く）約56億円が必要と見込んでいます。

なお、中学校は経過年数がそれほど経っていないため全面改修（余目中学校約17億円、立川中学校約8億円）をすることにより今後も長く使っていくことも可能と見込んでいます。

アンケートを実施します

今後、町民のみなさまの中から1000人を無作為で抽出し、「学校の地域における役割に関するアンケート」調査を、**子どもたちの全保護者**を対象に「学校の教育環境に関するアンケート」調査を実施します。調査結果などを踏まえながら、学校適正規模・適正配置審議会において検討を進めていく予定です。お手元にアンケート調査票が届いた場合は、ぜひ調査にご協力ください。